

## 納税者を何と心得るか！

2月20日、ベルシティの中の鈴鹿税務署確定申告会場に出かけました。受付に多くの市民が並び、職員から整理券をもらっていますが、「順番が来るのはいつごろ？」と聞かれた職員が「まあ2時間くらいですね」と、平然と答えました。会場の中を見ると、ズラリとパソコンが並んでいて、やっと順番が来た市民は、今度はパソコンの前で立ち往生。ただでさえ苦手な税金の申告を、訳の分からない画面に向かって一人でやれとは、あまりにも納税者に失礼な態度です。

私は幸い、家のパソコンで2時間ほど悪戦苦闘した申告書を出しに来ただけでしたので、すぐに済みましたが、一般市民がここでサッサと申告書を作れるわけがありません。

### 税金を通してわが日本の民主主義のレベルを知る

市役所の12階でも市民税の申告を行っていますが、こちらは職員がきちんと対面で、親切に申告書を作成しています。税務署の態度とは大違いです。というより、税務署の方が異常なのです。さすがに市民からの苦情が殺到し、新聞にも叩かれて税務署長がおわびしていましたが、いま電子申告「e-Tax」を進めている税務署のやり方が変わるとは思えません。

この2年で定率減税の廃止、老年者控除や年金控除などがへらされて、庶民は大增税、一方で史上最高の利益を出している大企業、金持ちへの減税はさらに続けるという、悪代官を絵に描いたような自民党政治。本当に腹が立ちますが、その上にこんな無礼な扱いをされれば、もう怒り爆発です。納税者＝主権者が尊重される社会が民主主義社会なのに、その根本が逆立ちしているのが、今の日本の政治なのです。

---

税金の申告や滞納などでお困りの方は、いつでも相談に応じますので、遠慮なく声をかけてください。

# 「道路特定財源」鈴鹿市ではいくら？

国会では「道路特定財源」の論議が白熱しています。1年に5兆4千億円、向こう10年で59兆円もの莫大な税金を、道路建設だけに使うという「土建国家」の象徴のような道路財源を、福祉にも教育にも使えるように「一般財源」にしようというのが、最大の論点です。

自民・公明政府はその巻き返しに躍起となり、地方の知事や市町村長を脅かして味方に付けようをしています。「暫定税率が無くなれば、地方財政には大穴があくぞ！」と。

## 歳入約13億円、うち「暫定上乘せ分」は5億円

国では「ガソリン税」が大問題ですが、地方で見るとその配分は少なく、自動車重量税（車検のときに払う税）と「自動車取得税」（新車を買った時に払う税）が多く配分されています。下の表で「本則分」と「暫定上乘せ分」の合計約13億円が鈴鹿市の年間収入ですが、国会で「暫定分」が議決されないと5億円の穴があくということになります。

2008年度鈴鹿市予算案の道路特定財源（単位・円）

歳入の種別	本則分	暫定上乘せ分	合計
自動車重量譲与税	2.3億	3.0億	5.3億
自動車取得税交付金	2.9億	1.4億	4.3億
地方道路譲与税	1.5億	0.3億	1.8億
地方道路整備臨時交付金	0.7億	0.6億	1.3億
合計	7.4億	5.3億	12.7億

たしかに今の税の枠組みのままなら、地方財政の大穴は大変なものです。しかし、これから道路特定財源を一般財源にしようという議論をしているのですから、その中で地方の配分を減らさない工夫をすれば解決はできるのです。いま大事なことは、「59兆円ありき」という政府与党のかたくなな態度をひっくり返し、ムダ使いを止めることです。鈴鹿市レベルで見ると、ムダな道路はありませんし、生活道路整備も遅れています。だからこそ、必要な事に自由に使える財源にすることを、国に求めるべきなのです。

# 元憲兵・西口さんの勇気ある告白

2月17日、「9条の会すずか」の第13回学習会で、若松在住の西口政一さんの「私の戦争と青春」というお話を聞きました。（ご本人が高齢のためビデオ出演でした。）

西口さんは昭和17年陸軍入隊、満州に渡り憲兵となり、ソ連国境でスパイを捕捉する任務に付き、逮捕連行した容疑者を拷問して取調べ、731部隊に生体実験の材料として送るなど、非道なことにも携わりました。

敗戦後はソ連の俘虜となり収容所生活、25年には中国に戦争犯罪人として送られ、満州で行なった非道な所業を反省、31年に釈放となりやっと帰国となったのでした。

中国人にひどい仕打ちを行なったことを、はじめ西口さんは「上官の命令でやったのだから仕方なかった」などと自己弁護していましたが、中国側の人間的な処遇や、病気のときの親身な看病を受けるうちに、人間の心を取り戻し、本当に反省改心したのでした。

中国やアジアへの侵略戦争に行った元兵士の皆さんの大多数は、現地住民への「加害者」として行なった行為をほとんど語りません。「思い出したくない、忘れたい」からです。しかし西口さんはこの日、侵略戦争の醜い姿をありのままに語られました。この謙虚な姿勢こそ、本当に勇気ある態度だと、参加しただれもが感動しました。

---

## 滋賀県日野町の「軽トラ町長」

2月8日、大津市で開かれた「自治体政策セミナー」に、日野町の藤沢直広町長が登場しました。藤沢氏は就任後に黒い公用車を売り払い、いつも通勤に古い軽トラックを使っているそうです。藤沢町長は、合併推進の前町長をリコールに追い込んだ住民運動のリーダーとして、県職員を退職して立候補、2004年に現職を破って町長に当選しました。現在52歳。

町長は「合併して良くなった町はない。合併せずに「住民と行政」「住民と議会」「住民と住民」の間の顔が見える関係を生かした町づくりを進める方が、自治の機能は前進する」と、明快に言います。日野町のスローガンは「自律のまちづくり」です。

近江商人発祥の地、戦国武将・蒲生氏郷生誕の地、そして「日野菜」のとれる町として、誇り高く歩む藤沢町長、今年は2期目の選挙です。

ずいそう

## 「母べえ」と治安維持法

大好評の映画・山田洋次監督「母べえ」は、日本が中国への侵略戦争に突きすすむ昭和12年から15年、特高警察に捕えられた良心的学者・野上巖と、留守を守る妻・綾子、2人の娘・初恵・照代の一家が、どん底の中を明るく健気に生きていく姿を描いている。苦難を耐え家族に愛情を注ぐ吉永小百合の「母べえ」に、多くの人が「日本のお母さん」を見て涙した。

### 一家を苦難に陥れた「稀代の悪法」の正体は

ところで野上氏はどんな罪を犯して捕まり、4年もの間投獄されたのか？その理由は「治安維持法」に違反した、その一点だけである。

「治安維持法第1条 国体を変革することを目的として結社を組織したる者、又は結社の役員その他指導者たる任務に従事したる者は死刑又は無期若しくは7年以上の懲役に処し・・・」

この法律は1925年に制定されたが、その目的は1922年に創立された日本共産党を弾圧することであった。28年には最高刑を「死刑」に改悪し、全国で共産黨員や支持者を片っ端から捕まえて、小林多喜二など多くの黨員が虐殺された。「国体の変革」、つまり天皇制政治に反対する思想、考えを持っただけで「死刑」だという、究極の悪法であった。一方、第10条では「私有財産制度を否認すること」つまり社会主義の運動だけなら最高でも「懲役10年」という扱いで、ときの支配者は社会主義よりも「民主主義」を恐れたのであり、「主権在民」を高く掲げた共産党を何よりも恐れ、きびしく弾圧したのである。治安維持法によりのべ数十万人が逮捕され、75681名が送検となり、分かっているだけでも1682名が、拷問、虐殺、獄死により命を奪われた。まさに「外なる侵略」は「内なる弾圧」とワンセットである。

この映画での「父べえ」も、昭和15年暮れに獄死したことになっているが、実在の野上氏は保釈となり、敗戦後の20年、はじめて公然と活動を再開した日本共産党に妻とともに参加し、余生を平和と民主主義のために捧げたとのことである。そのこと以外は、すべて事実に基づいた映画である。

ほんの60数年前、この国にこんな稀代の悪法があったこと、多くの先人たちがその犠牲となったことを、私たちは決して忘れてはならない。